

1985年 3 月号

1985年3月5日発行（毎月1回5日発行）

No.101

# あんふあんて

発行人/ 発行所/あんふあんて出版部  
定価/200円 振替口座/ あんふあんての会 電話/

## おかしなさんの絵





＝ 特集 ＝

(座談会)

女の子・男の子を育てて

司 男の子の育て方とか女の子の育て方とか何か決まった形のこうすべきだみたいな話じゃなくて、実際に育てて思う事を話してみたいと思います。現実の場面でいろいろと思いたること、そのあたりからどうでしょうか。

「らしさを要求される子供たち」

水 実はこちらは同居しとりますけどね、私の方針として、男とか女とか区別なく育てていきたいと思ってるんだけど、夫やじいちゃんばあちゃんも普通の子供達に押しつけたがるんですよ。

司 具体的に？

水 例えば男なんだから泣くなって言うじゃない。だけど私なら、くだらん事で泣くな！と言いたい。長女は活発で家中さわぎ回す。私は元気でいいと思ってるけど、じいちゃんたちは、女だからもつと静かにせい、行儀よくせいっていうふうに言ってくるわけ。

植 私去年まで七年間の同居生活で、しっかりと子供にそういう考えが植えつけられて、今その軌道修正に大変なのよね。

奥 大家族で暮らしていると、自分だけの考えで子供を育てられないっていう事あるよ。



ね。

森 同居はしてなくても保育園の保育さんとか教師から、そんな風な考えをずいぶんたたきこまれる場合もあるし。

水 だから私は入園、入学時に「ご家庭の教育方針は何かありますか」なんていう欄には必ず「男女の区別なく育てて欲しい」というふうに書くことにしているよ。

岡 自分一人で子供を育てているわけじゃないから、事あるごとにそういうのを声に出していかなきゃいけないよね。

奥 自分としては性差なく育てようとしても、これまで生きてきた三十数年の間に知らないうちに自分の内に男である、女であるみたいな考え方に汚染されているところがあるって、無意識に男女の区別をしちゃっているときがあるな。

司 それはどんなこと？

奥 例えは器量、男だつて器量良しの方が親として嬉しいには違いないけど、怪我して傷が残った場合なんて、やはり女の子のだったらいけない気になると思うよ。それに男だったら、やはりエリート志向的に良い大学・良い勤め先をと願っちゃう。学校の成績なんかでも女の子よりずっと気にすると思うの。

娘には私達の教訓を伝えたい。

忍 あらそう？ 私は女の子にこそもっと頑張らせたいと思ってる。その中でも一生の仕事につながる特技を伸ばしてやりたいのよね。

森 そうよね、女が希望する職業につくってまだ難しい世の中だものね。私なんて大学卒業で就職の説明会の時に、「女子学生は募集人員がとく少くないので、できる限りコネを使つて捜してくれ」って言われた。掲示板を見たら、本当にびっくりする程少ないんだもの。同じ力があるとしたらやっぱり男優先の職業社会だものね。

忍 まして私みたいに専業主婦になつて何年もたつて、この年から仕事につこうと思うと最悪なのよね。

植 そうそう。私も自分の二の舞だけは踏ませないと思ってる。

水 私なんて、結婚していったん家に入ってから仕事につこうとして、今まで五回仕事を交えたのよ。その間、年はとってくるし、子供は三人になるしで、交える毎に条件が悪くなるんだもの。

忍 だから娘の場合は特に資格とか特技とかにこだわっちゃうのよね。

司 そうね。ところで女の子の育て方には、自分に苦い経験とかがあつて、それを否定する所から、結構こうしようとかいうのが見えるけど、男の子の場合はどうでしょうね。

岡 男の子の自立を考える

岡 うち男の子二人、女の子一人だけど、家事の面でまづ身の回りのこと、洗濯物を干すとか皿洗いとか、夫を筆頭にみなさせてい

をどう受け入れるか、最後の選択は子供自身

がしていくものだと思う。

森 自分で自分の人生を選択し、切り開いていく力量を持った子供に育てたい、育てて欲しいところかな。

司 というところで、しめくりという事にしましょうか。話し足りないところもあるかと思ひますが、またこういう機会を持ちましょう。今日はお疲れさまでした。

（後記） 久しぶりにまとまった話し合いをしましたが、いろいろな問題が出てきて未解決のままです。例えば「女らしき男らしさ」とはいつたいうことか」「家事は思いやりか」とか、議論が分かれるところだと思ひます。また、「ユニセックス化していく社会は男女の差を縮め、男女差別をなくしていくか」など、むずかしい問題です。みなさんのご意見を広くお聞かせください。

（出席者・岡部、奥山、忍田、水本、森中、植田、司会者・秦）

忍 やはり男親がやってないと、初めのうちは母親の言いつけだからとやっていても、続かないわね。その点私の所は夫のしつけがまるでダメで反省しちゃうけど。子供が三人とも女の子でことと救われている。

森 私の団地の二階の奥さんは男の子二人にずつと皿洗いをさせてるよ。その二人は悪くてネー、でも「ワンバクでもいい、家事がちゃんとできて欲しい」って願っちゃう。私の息子にはしっかりと花婿修業をさせようと思ってるよ。

奥 忍 ウー、いい、いい、うちの娘婿に予約、予約（笑い）

奥 家事をね、しつけとか技術としてとらえる前に「思いやりの問題」としてみたい方がいるんじゃない。「あいつも仕事を疲れてるんだから、俺が洗ってやろう」とか自然に出るよ。

水 ウー、そうかな。私は思いやりがあつて食事を作っているわけじゃないのね。あいつがしないから、しかたなくしているだけだもんね。

森 私の両親は家事を分担しあう夫婦だったから、ダンナにはそういう人を選んだつもりだったのよ。ヘタながらもすべての家事が一応できるの。だけど私がいけば当然のように私の仕事になっちゃうのね。「おまえが作った方が美味しい」とか言つて逃げちゃう。結局、男と女がいたら女の方が何でもしなきゃならない。男女の別なく上手に家事をこなす家庭科教育って大事だと思うな。

皆 そうね、（一同吐息、フー。）



おしっこも座ってして  
甘木市

娘に、  
女だからという制約を感じさせないように育てたつもり。

でも、女らしい動作とエチケットは別と考  
え、人を不愉快にするほど粗暴にならないで  
男の論理がすべて優れているとは思わな  
い。

結婚の時の物質的な援助はひかえさせてほ  
しい。

独りでも、子供を産んでも、夫をかかえて  
も暮らしていける力を持つてほしい。

息子に、  
腕力を誇示しないでほしい。たくましさは  
精神的なもの。

色彩に男色も女色もありません。たくさん  
の色を愛でてください。

家庭科の科目はどの勉強よりも熱心にやっ  
てほしい。

厨房にはおおいに入ってほしい。中学生に  
なったらお弁当は自分で詰めてもらいます。

生活力とは家族に賛成させてやることで  
なく、生活全般に思いをかけること。生きて  
いく為の身の回りの雑事は自分の手で処理でき  
るように。さらに人の為にもごく自然にそれを  
やるように。趣味や気分転換だけで家事の  
やる男性にならないでほしい。

トイレでは、おしっこも座ってしてほしい。  
立てばそれだけ飛び散るのは掃除してみ  
て解ったでしょう？

娘に、息子に、  
育てたからといって特別な感謝は要らない。  
親の体面のために無理をするのはやめてほ  
しい。自分に本当に必要であればこそ頑張っ  
てほしい。

いつも熱中できるものを持つて生きてほ  
しい。いっしょにいて楽しくなるような人  
でいてほしい。

将来、互いに尊敬でき、高めあえる異性  
めぐりあつてほしい。子供を育てるときは  
ちからも同じエネルギーで関心してほしい。

年をとってもあなたたちに負担をかけない  
親でいるつもりだけれど、生きている喜び  
は分かちあいたいね。

軟弱な母体だったのに丈夫に育つてくれ  
てありがたう。この頃だいたい話しが通じやす  
なってきたみたいだね。

また、いっしょに旅をして、違った空気を  
五感で味わおう。ところで、このあいだのお  
年玉、その時まで預かっておいてあげようか？

### 「可愛い奥さん」にはならないで

福岡市 忍田

うちには三人女の子がいるんだけど、同性  
でしよう。こうなつて欲しいと思う姿で、  
どうしても私が出来なかつた事、果たせな  
かつた夢を子供に望むという風になつてしま  
うみたい。やりなさいのきかない人生を子供  
で一度しようみたいなのあまり好きじゃな  
いの。

もちろん、この子達はこの子達の生き方を  
そのうち見つけ出すだろうから、自分の思  
うように生きればいいて思っている。けど、

やつぱり親の伝えたいものついでいうのはある  
から。

ともかく自立して生きて欲しい。強い体と  
タフな精神を持ち、もちろん経済的にも一人  
立ち出来るよう。家庭はいいものだけれど、家  
庭にだけ生きる女になつて欲しくない。もつ  
と広い世界を手に入れる。「私は女だから」  
という枠に自分を閉じ込めて世界を狭くし  
ないで。自分の考えをしっかりと持つて世間  
に押し流されずに、ね。

・あ、言う事はやすい・

果たしてどんな大人になるんでしょう。

「可愛い奥さんになりたい」なんて言い出  
さぬように、なるべく社会で活躍している女  
性を話題にしたりするのだけれども。テレビ  
のサッチャー首相を見ていたら、「女の首相  
とか日本にいないもんねえ、女だつて出来る  
のねえ」とか。

同じ夢を見るなら、首相の奥様になる図を  
夢に見るのでもなく、自身が首相になる事を望  
んで欲しいもの。

この子達が社会人になる十数年後に社会が  
今と大巾に変わるとも思えないから、いつで  
も通用する切り札を持たせたい。目に見える  
特技・資格のようなものでもいいし、創作に  
関わるいい感覚みたいなものでもいい。

そして一人暮らしを絶対させる。生活を一  
人で全部させてみる。一人つぎりの気楽さと  
さみしさを存分に味わつて。

さいごに。沢山のひと付き合つて、色々な  
考えの男の人を見て。よく考えて、一緒に暮  
らす相手を見つけて欲しい。

したたかに生きて、ね。

鹿児島本線の下り始発駅、門司港。ここに  
一人の在日朝鮮人が、もう十三年も、たつた  
一台の病院のベッドのみを「我家」として生  
きている。その人の名は、金鐘甲（キム・チ  
ョンカプ）。現在六十四歳のおじいさんであ  
る。その金さんと私の出会いを書くと――

大学に入ってから実感したことであるが、  
私は、まさに現代教育制度の被害者であつた  
と思う。被害者といえどカッコーい、なん  
ということはない、点取り主義の受験型人間  
であつたと思うのだ。世界の歴史も、日本の  
歴史も、ただただ試験の為の暗記項目でしか  
なく、歴史を作つた全ての人々、侵略した側  
とされた側の人々が今も生きていて、そして  
その双方の子供・孫である人々も同時に存在し  
生きているのだということに、気がつきもし  
なかつたのである。そんな受験型人間の私が  
人並みに持っていたのは、好奇心だった。そ  
の好奇心が、私に「入管問題」という聞いた  
こともない問題を考えさせることになつたの  
である。「出入国管理令」という法律と、今  
指摘押捺拒否で世間一般に知られている「外  
国人登録法」について、あるグループで学習  
していた時、知人K氏（金さんの主治医）か  
ら、金さんという人が強制退去されようとし  
ている、それをなんとかしてやめさせよう、  
という話があつた。金さんとの付き合いの始  
まりであつた。（一九七二年十月）。戦前日  
本が朝鮮を占領していた頃、強制連行とい  
う形で多くの朝鮮人を日本へ連行してきたとい  
うこと自体、大学に入って自主学習するまで  
知らなかつた私は、金さんのこれまでの生活  
のあり様をじつと聞くために、毎週土曜日、

門司港の労災病院の一室に通つた。二十歳そ  
こその屈強な若者だつた金さんが牛馬のよ  
うにつながれて日本へ連れてこられ、食物も  
衣服もろくに与えられず、無給労働など全  
くなしで働かされたこと。そして敗戦で一文な  
しで放り出された彼らに、日本国は戦争時の  
賠償こそすべきなのに、

それどころか外国人として  
管理・抑圧・排除する  
ことしかしなかつた。金  
さんは、常にその抑圧の  
真つ只中でしか生きてこ  
れず、ついに家族も作る  
ことができなかった。今  
は身よりも全くない。

金さんの半生は、日本  
国によってメチャメチャ  
に踏みつけられてしまつ  
たといえる。だからこそ  
金さんは、どうしようも  
ない怒りを日本国にぶつ  
けることと、いつ日本国  
から追い出されるかもし  
れないという居住権の不  
安定さをくつがえすすべ  
く、「日本国籍確認」と

「これまでの損害賠償金  
三千万円を支払え」とい  
う二点で裁判を起こし  
たのだつた。これに對する判決は、「たと  
え違法行為があつても時効が成立する」とい  
うものだった。字も読めず、書けず、法律知  
識も全くない金さんの裁判を、法律的な面  
で支えたのは、補佐人となつた主治医のK氏と

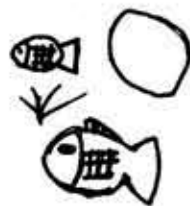
## 金さんのこと

水本

在日朝鮮人の雀牧師であつたが、金さんを痛  
む体をおしてまで北九州から福岡の地域へ九  
年間もの間通い続けさせたものは、何よりも  
裁判官と国側の検察官に一言言つておきたい  
という、金さん自身の怒りであつたと思う。  
裁判を起こした一九七五年八月は、ちょうど  
長女が生れて一月月くらい経つた時で行けな  
かつたのだが、それ以来、「何の生きる望み  
もない」と言う金さんを、子連れで見舞うの  
が、ボツボツと続いていた。金さんは日に日  
に弱つてきて、めつさり白髪も増えてきた。  
見舞から帰るときは、自分のおじいちゃんを  
病院に一人残して帰るような後ろめたさがい  
つもつきまとう。半身不随の金さんに、それ  
でもまだ元気が残つていよううちに、何とか生  
れ故郷に行かせてあげたい、と切実に思う。

税金は支払う義務があるが、参政権のない  
在日朝鮮人・朝鮮の人達。朝鮮民族であるとい  
うだけでいわれのない差別をうけている人達  
がすぐそばにいて、ことにすれば、あんなに  
つづいてほしいと思う。

（太宰府市在住）





あんふあんて  
から  
あんふあんて



「落ちこぼれ」のはしり故に……

福岡市

私は子供の学習成績に強くこだわりを持ちます。長女、小学二年生。昨々年の夏、初めて手にした我が子の成績通知表を開いた時の驚愕を今でもあざやかに思い返します。普通よりずっと利発と疑うことのなかった、賢い、賢い我が子の成績表は、なんと三段階制の成績で「よい」が一教科のみ、残る七教科はすべて「ふつう」なのです。しかも福岡では学習レベルがぐつと劣るといわれている小学校においてです。

それから一大奮起。娘にかなりの量の家庭学習を強いました。私とて、一年生からどんなものかと迷いはありません。私自身が小学校から中学一年にかけて落ちこぼれ児として暗い学校生活を送りました。その過去の苦味が親の焦りとなって、ためらいや迷いよりも先行してしまうのです。

私は教育大附属学校でしたので、なおのこと、勉強のできる子は王様でした。できない子は、いかにスポーツに優れようと軽んじられたものです。五段階評価で三以外とったこ

とのない私は、病弱な事もあって、よく仲間はずれにされました。対等につきあってももらえない悲しさ。そしてそれ以上に、勉強についていけない授業時間の退屈さは苦痛でした。先生が何を言っているのか、何を答えようとしているのか、ちっとも解らない。退屈だからといって、おしゃべりはいけない、手遊びは叱られる。外を見ればどなられる。身の置き所がないような、あの一人ぼっちの所在なさは辛いものでした。毎朝の通学は気が沈んだものでした。

それが中学二年頃でしょうか、次第に授業の内容が解り出したのです。まるでそれは頭の中の霧が晴れていくようでした。体が丈夫になつてきた事、副鼻腔炎の治療をした事、成績の良い仲良しの友達ができたと事などが関係しているかもしれない。それからの私は、いじわるされたりしつかり仕返す。おしゃべりになる。先生には反抗する。明るくなったと人に言われるようになりまし。当り前の成績をとるようになって初めて、積極的な生き方を身につけ出したように思っています。勉強のできない事が必要以上に自分をいじかせていたように思い返されます。

クラスで一、二番になれ、良い大学に入れ、立派な職業につけ、と娘に言いたいのではないのです。ただただ、授業が解り、勉強についていける子に、と願うだけです。たかが勉強ぐらいで辛い思いをする必要はない、と言いたいのです。仲間うちでいじける事なく、「私」でいる為に、授業時間を楽しく過ごす為に、娘を落ちこぼれさせたくはないのです。娘に課した家庭学習の成果が、予想通り娘

### 「同和」地区の学校事情

福岡市

東京と福岡の大きな違いは、同和地区があるなしの差ではないだろうか。東京に同和地区がないわけではないけれど、顕在化していないのに比べ、福岡ではどこへ行っても、「差別はやめよう」「同和教育を推めよう」などの看板を見ることが出来る。

福岡に引越してきて、たまたま同和地区に居をかまえることになったのだが、最も驚いたことは、小学校の一年生の人数が、三十人前後ということだった。小三の娘のクラスは二十九人、小五の息子のクラスは三十二人と、東京で四十人学級実現のための署名運動を何年も続けてきた私にとっては、大きな喜びだった。

参観日に行くと、いかにも家庭的なクラスという印象。閑散として、ちよつと淋しい気さえる。娘などは「友だちの数が少なく、いつも先生に見られているようでイヤだ」と言う。勉強の面ではいいけれど、ワイワイガヤガヤ大集団を結成する喜びがないということだろう。若い男の先生も多い。めつたに若い男の先生にお目にかかれなかった親としては、ちよつとまぶしい！嬉しい！

学校のカリキュラムの中には人権教育が組み込まれており、今年三年生は松本治一郎のことを、五年生は水俣病のことを、勉強している。「同和」「部落問題」という視点ではなく、「同和」「人権問題」という視点のようだ。父母を対象にした講演会も多く催される。新参者の私には珍しくて勉強になるけれど、三人の子供を学校に通わせ、学校とおつき合

いが数年になるようなお母さんなどは、ほとんど顔を出さないようだ。

どちらにしても、ほとんど死語と化した、「人権」に真正面から取り組んでいることにとても新鮮な思いがする。

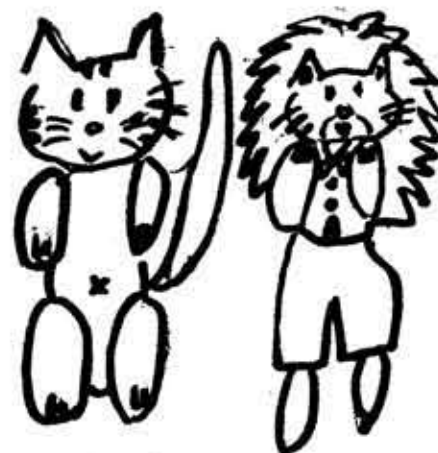
また、学校の第一目標が、「落ちこぼれを出さない」というもので、先生方は基礎学力を身につけさせようとやっきになっている。父母からは、「中学へ進むと、他地域から来た子供と差が出ていて、追いつくのに苦労する」と不満が出ているようだ。つまり、下ばかりにかまけていて全体のレベルが低くなっているというところらしい。しかし、長い目で見れば、「幸福な小学生時代」がやがて大きく花開く可能性が十分あるのだから、私はあまり気にしていない。

要するに、子供たちは同和地区であるがために、受験路線から守られているといつてよいと思う。ただ気になるのは、高学年の女の子の気力のなさ、活気のなさだ。私自身のことを顧みると、受験戦争のさなかに身を置いて、「男の子なんかには負けるものか」という気迫があったと思う。受験地獄の弊害は私の中で形を変えながらもずしと引きずっているわけだけれど、「男に負けない」という心意気だけは思わぬ拾い物だったといえようか。人権教育の中に男女差別の問題も組み入れて、女の子を奮奮させて欲しいと思っている。

の成績は上がりました。とても明るくなり、友達がたくさんできました。もちろんそれが成績の為だけとは思いません。しかし二年の夏に娘が言うのです。

一年の時は、勉強の時には先生が何を言っているのかちよつとも解らなくてね。つまらないから絵を書いたり、ぬりけし（粘土みたいな消ゴム）で遊んでいると先生に怒られるでしょ。おしゃべりはしちゃいけないし、本当に「一人ぼっち」って感じて学校がいやだった。二年になったら先生が何言ってるかわく解るようになって、聞かれてもだいたい手をあげられるよ。今は学校がとても楽しいよと、生き生き話すのです。

迷いつつも、娘を怒鳴りながら勉強させてあれで良かったと、娘がいとおしく胸が熱くなりました。良きにつけ悪きにつけ、せんと自分の過去からしか子を育てることはできないのだと思っています。



### Hさんへの手紙

豊福

先日のお電話、本当にびっくりしました。久しぶりにあなたの声が聞けたと思ったとたん、「どうしよう！私、お姑さんとけんかしちゃった。」

赤ちゃんも生まれて、幸せ一杯というお手紙を頂いたばかりだったのに。でも、昨日の二度めの電話では、随分、お互いの気持ちも落ち着いた様子なので安心しました。肩の力を抜いて、ごく普通にしていれば、貴女なら大丈夫、お姑さんとも充分うまくやっていけると思うのだけれど。

私の方は、考えてみると、同居を始めてもう十年近くになる。お姑さんと御茶を飲みながら、

「もし貴女達が来るなら、少し増築して、台所をもう一つ作って、私もお父さんも、体の強いうちは、自分の食べたい時に、好きなものを作るから、貴女達も、好きな様にしたいんだわ」と言う言葉に意気投合してしまつたのよね。

里の親よりも長く一緒に居ることになるんだもの。平均寿命から考えても三十年近く。これからは、この人達を自分のより身近な人達として大切にしなければいけないと覚悟した訳。初めのうちは緊張して、要らぬ気遣いをして悔やんだり、ちよつとした言葉の感傷にイライラして余計な事を言ったり。でも、三年位たつうち、お互い違つた環境で生きてきた人間だし、黙っていて通じるといふものでもないし……なんて思い始める様になつたの。



やつとくまく行くようになったなと思つたら、今度は、夫とお姑さんがとても良く似ているのを発見。テレビのニュースやドラマに對する感想なんて本当に良く似ているの。それも、前夜夫が言つたのと同じ様な事を、翌朝、昨日のあれはこう思う、という調子で耳にするのです。この人となら一生一緒にやつてゆけそうと思つて結婚した人と同じ感性を持つてゐるのだから、何となく楽しくなくなつてしまつて。親子つてやはり共通の基盤があるのだと、再認識させられてしまつた感じがする。

ときめけなく言いたすのです。まるで今夜のおかずの事を話すみたいに。「頼んでおくわよね!」と念を押されても、嫁としてまだ現実感はないし、いざとなると受け容れられるかどうかはわからない。でも、心のどこかに覚えておいてあげないといけないのかな、などと考えています。

そんな話をして一カ月も経たないうちに、近くに住んでいる姑の妹が遊びに来て、「私達、子供が居ないでしょ。主人の方は私が居るからいいんだけど、もし一人残ったらと考えると夜も眠れなくなってしまうのよ。貴女

には申し訳ないけど、姉さんと一緒の部屋でもいいから、もしもの時はお願いね。年をとってわがまま言うけど」

想像を超えた内容だけど、こんな風に言つて貰える状況にも、ああ十年経つたのかな、と実感します。貴女もお姑さん同居の身。十年か二十年先、お互いに相談し合わなければあー嫌だ、なんて言いだしそうですね。その時はお手紙待っています。

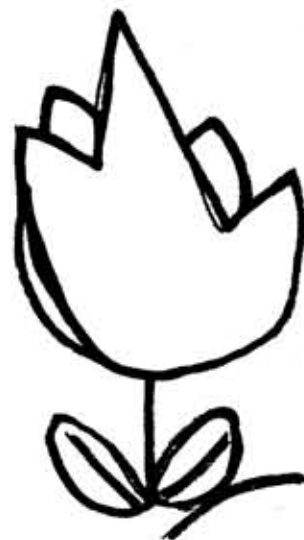
貞方

昨年九月から始めた共同保育グループ「つみきの会」は十五名の母親達の週一回の集まり。何とか軌道に乗り始めた。

転動族で、誰一人知人のいない福岡にやって来た。子供と二人、静かにひっそりと暮らしていた。そう、いつも子供と二人向かい合っていた三年間。働いて生き生きしている人がうらやましかった。本音で話のできる友達のはしかなかった。そんな時とびこんできた「共同保育」という言葉。みんな頑張っているんだと勇気づけられた。

てみると、それぞれに動機は違ふけれど、みんな何かを求めて集まつて来た。まだまだ、共同保育というにはおぼつかないけれど、大事な一歩を踏み出した、と思つてゐる。これからの課題は、母親同志ゆつくりと話のできる場を持つ事。スタートが、"子供を楽しく遊ばせよう" という事に重点を置いたため、母親同志のコミュニケーションの深まりが今一つで、なかなか互いの共同保育に対する意識がつかめないでゐる。最初は、子供達の遊びの中に親同志の連帯の輪が広げられると思つた。その延長線上に、自然な形で、同じような想いで子育てをしている母親同志が助け合い、共同保育という形がとれる、と樂觀してゐたのだが……。

これからも私達の試行錯誤は続きそうだと。各地で"共同保育"にとり組んでこられた先輩達の話の聞いてみたい気がする。



お便りください

五人で共同保育グループを作っていました。二、三人が保育にあたり、残りの人が三、四時間の自由時間をとって、趣味を楽しんだり、タイプなどの学校へ通っていました。

こういう共同保育に興味のある日野周辺の方がいらっしゃれば、連絡いただきたいのですが……。

この頃、一歳三カ月の娘はすこい人見知り  
で私から離れない。ほとんど家の中で二人き  
り。公園に行つても遊んでる子は一人もいな  
いんだもの。毎日、誰ともしゃべらないこ  
との方が多く、このままではノイローゼにな  
りそう。

こんなこと思っている人、お友達になつて  
ください。

私たちのお産体験を  
本にしてみませんか。

今、お産も選ぶ時代といわれ、医学博士の書いたものから「天婦で産んだ素敵な経験談」まで、お産の本もたくさん出ています。けれどもいざ妊娠してみると、町の本屋さんには欲しい本がなかったり、近所の産科の様子を知りたくても詳しい話をきける知人がいなかったりして、選ぶための情報はまだまだ少ないのではないのでしょうか。それに、よいお産をするためには、よいパートナー、よい医者、よい助産婦、よい友人がいなくては絶対にダメ？——現実はそのはいきません。でも自分なりに少しでも納得のいく方法を選びたい。

——そこで私たちはまず、自分たちのお産体験を話し合いました。そしてさらに、なるべく多くの方にもきいてみたいと、あんなんて会員を中心にお産についてのアンケートをお願いしました。(一九八〇年三月実施)

その結果、それぞれ異なった状況の中での様々なお産体験が寄せられました。その中からもっと早く知っていればもう少しよいお産が



(担当 大山・川崎)



# 「託児に関する連絡協議会」の試み

福岡あんふあんと

あんふあんとの会員の皆さんは、集まりを持つ時に、保育方法はどうにしていますか。だいたいは、阿鼻叫喚の中、それに負けず劣らずの声を張り上げての話し合いではないでしょうか。この状態を抜けだすために、私達のグループはいろいろな試みをしてきました。最初の方法は、同じ婦人会館を利用して「あこがれ九州」と協力して、例会の日を違え、互いに託児者を出し合っていました。ところが、仕事を待つ会員が多いグループなので、次第に託児者を出し合う事が重荷になってきました。

そこで、例会の日時を同じにして、託児料を折半して保育者を頼もうという事になり、その保育者探しにかなりの時間と労力を費しました。一年半前から、ようやく私達の活動に理解ある保母さんに巡り合い、落ち着いた保育者をして貰っています。しかし、定まった日時以外に集まりを持つ場合や、保母さんの都合が悪い場合などは、すぐに託児者に困るのです。

婦人の何割かは幼児を持つ母親であり、学習などをするにあたって託児は不可欠のものです。行政機関が婦人の学習を推進するならば、この問題をもっと真剣に考えるべきなのです。

人口百二十万の福岡市の場合でも、公の施設に幼児室を設けているのは市立婦人会館だけなのです。ここは常時一般開放しており、附帯設備も整っていますが、折角の幼児室も保育者を確保できないグループにとっては意味のないものになっていきます。常々会館の保育室のあり方に疑問を抱いていた私達は、昨秋の婦人学習交流会に、「婦人の学習と託児」というテーマで公開座談会を開きました。

今までの思いをぶつけようと、早速準備にとりかかりました。全国の婦人会館九十七カ所の託児状況についてのアンケート調査とその集約。座談会の参加依頼。依頼先は、幼児室の使用頻度の多いグループと、会館主催の講座に託児付きで参加した人。座談会の主旨に賛同する人へのインタビュー。短期間ながらかなりの準備ができました。準備段階の話し合いを通して、我々の「託児」に対する思いが明確化されていったのが、何よりの収穫でした。

アンケート調査によれば、専従の保母のいる婦人会館は、全国で二カ所と極端に少なく、専従の保育者がいない会館では、幼児室があってもあまり利用されていないようです。利

用者は、四十〜五十歳台が圧倒的なパーセンテージを占め、子育て真最中は、婦人会館の対象外に置かれていた状況です。保育者がいる名古屋と神奈川のうち名古屋では、ボランティアの保母と母親とのパイプ役として専従の保母がおり、とてもうまく機能しているという感じがあります。福岡の婦人会館ではボランティア講座があり、毎年五十人もの人が修了していくのですが、幼児室の保育ボランティアへ方向づけられた事はありません。館の姿勢のあり方にも、だいたい開きがあるなと思いました。婦人会館と名のつくものは各地にあるけれど、形ばかり整って、私達子連れから見れば内容が伴わない会館ばかりでした。腹立たしさと驚きとともに、やつぱりね、という気持ちになりました。

さて、座談会当日。出席者は、個人四名、グループから十名、会館職員二名、あんふあんと六名の計二十二名と、まあまあ的人数です。予想以上に自由な発言が出て、最後にはかなり白熱した雰囲気の中で、我々の願い通り、婦人会館の専従保母設置の為に集まりを重ねよう、と意見が一致し、「託児に関する連絡協議会」が誕生しました。主催者のあんふあんととしては、私達と同じ思いをしている女はたくさんいるのだ、という確認を得られ、たいへん強く思いました。

しかし、会館側は、「部屋を貸すのは無料だし、その上保母として一人分職員を増やすための予算を計上するのはむずかしい。館側としては、保育のことが問題になったのは初めてなので、今から考え始めるとは言いようがない」

と、逃げ腰の姿勢です。

私達としては、会館が敵ではないし、会館と共に取り組んでいかなければならない問題だと思っているのですが、「初めてのことで……」という発言には、少なからずショックを受けました。我々にとつて数年来の大問題が会館側にとっては初めての問題とは！しかし、考えてみれば、声を出して「保母を確保して欲しい」と言ったのは、今回が初めてなのだから、館側が初めて聞いた意見と受けとるのも不思議はないのです。声に出さなければ問題はならないと、思い知らされたという訳です。これからの連絡協議会の運動も、「言うべき所に行つて言う」を方針としなければ、骨折り損のくたびれもうけになるのは確かでしょう。

卵が先かニワトリが先かではありませんが、託児の充実が母親を積極的にさせるのか、母親の積極性が託児を充実させるのか。その両方なのではないかと、指をくわえて託児の充実を待っていたのでは、いつまでたっても女の活動の場は広がらないという事は確かです。その意味では、連絡協議会の結成は、ほんの一步を歩み出したに過ぎないのです。前途多難という訳には行きませんが、私達の娘が利用出来ればという位に気長くやって行こうと、話し合っています。

現在、毎月一回例会を持ち、右往左往しながら活動方針を検討していますが、あんふあんと以外の参加者は三名、グループからの参加者はゼロという心細い状態です。これから課題は、途中で投げ出すことなく、いかにして長期的視点に立つて取り組み、存続させて行くのか、ということです。

## 福岡 あんふあんと の 十 年

十年前、当時の閉塞状態に風穴を求め、三人の年子をおんぶに抱っこに手を引いて、出かけた先が福岡あんふあんとで発足会合であった。そこには「子供がいても何かしたい」の空気が満ちていた。子供の預かりあいを始め、互い手をさしのべあえる信頼関係を築きたいという思いがみなの中にあった。集まりの場として一会員が自宅を開放してくれた。会の資金作りにバザーを開いた。内の事だけに専念すれば良いはずの妻たちが、訳の解らない集りの為に家を空ける回数が多くなり、家事への影響が出てくるにつれ、あんふあんとさえ無ければ平穏な家庭であつたらうと、夫達の誰一人として決して暖い目で見てはくれなかつた。当然場所の提供は断られ、大人の三倍の子供数に耐え得る所を求めてしばらくの間転々とした。そのうち福岡市立婦人会館がオープンした。無料かつ幼児室付きで利用できるというのは何より有難く、あんふあんとでの十年はこの施設と共に在ったといつてもよいくらいである。婦人会館に落ちついてからは、さまざまな活動、取り組み女性たちとの出会いがあり、あんふあんとだけでは到底不可能な二度の映画上映会を催すことができた。私達同様の身動きのとれない女性たち

にこそ見てもらいたいと託児を設けたところ、意外に決山の子供達が連れられてきた。エプロンがけで託児係を引き受けてくれた夫たちの協力が嬉しかった。あんふあんとの中で変化してきた私達のかたわらで、夫たちも確かに変わつてきていたのである。

例会では母子別々であるが、子供を引きつれてのキャンプに、海水浴に、お泊り会にと、遊ぶことにかけては実にまとまりがよい。その中で子供同志の親しみも深まり、婦人会館での託児室が一層楽しいものになるといふ具合である。そのうち年長の子供たちが託児に手を貸してくれそうである。

小さな窓口ひとつあるだけでリーダーも無く、自分の意志で関わりを持ち、横に手をつないでいる私達である。それぞれが仕事と家庭、夫や子供とのバランスをとりながら、忙しい合間をぬって馳けつづける。時には恥を承知で夫の愚痴を吐くこともあるけれど、自嘲をこめた男性主導社会への批判のつもりでもある。男と女が対等に生きる時代の手本はこれまでの歴史になかつたのではないだろうか。あんふあんとは「女」というより「一個の人間」としての自然な生き方を支えあう場でありたいと思っている。

(甘木市)



## 事務局から

○事務局専任スタッフ募集ノ  
現在、フリーのスタッフが少なくなっており、会全体の運営をスムーズに行う為に是非もう二名、専任スタッフが必要です。現在一名、どんなことをするかという点、会員名簿、会費の管理、会報の発送に関する作業、編集スタッフや催し物など担当するフリーのスタッフとの連絡。その他に会の窓口として、会員からのいろいろな問い合わせや他のミニコミ、マスコミ等との応対などがあります。人間大好き、あんふぁんて大好きな方なら事務能力などは二の次。新会員も歓迎。但し、月々金曜日の10時から4時まで子なしで通える方。交通費の他、月5万円が支払われます。事務局に新風をノッて待っています。  
○あんふぁんて静岡の連絡先は、村松さんから中村 さんに変更しました。

## スケジュールメモ

3月15日(金) 4月号原稿締切  
4月5日(金) 4月号発送  
4月号は西武新宿線下井草周辺で編集します。参加できそうな方は日程、場所の詳細等左記に問い合わせを。原稿の送り先も同じ。

## スタッフから

「あんふぁんてって何？」と夫と子供に聞いてみました。  
●夫(41歳) 女房の勉強会。裕子(小2) お母さんのお集まり会。祥子(5歳) 子供は遊ぶ。大人はおしゃべりしたりお仕事したりする。  
●夫(36歳) 女の井戸端会議。初喜(小4) いくつかはきつと女も偉くなるようにがんばっている会。奈望(小1) みんなでね、戦争反対や反省とかすると。  
●夫(34歳) やめて欲しいが、どうせやめないだろうから、手伝っちゃるよ。夏子(小4) ようわからん。  
●夫(41歳) 女の地位向上を目指す集まり。美木子(小5) 生きていくためにいろいろ考える。成博(小4) 忙しくて、わざわざ遠くまで話しに出かける会。晃博(小3) 子供の生活をよくする会、子供を楽しませる会。  
●夫(36歳) 子供のことも大人のことも集まり。  
●夫(28歳) なんかわからん。(大池) ●たえ(3歳) 婦人会館。良太(5歳) お店の名前だと思ふ。  
●夫(35歳) どうなるかわからないけど、女のいい集まり。央(小5) アホくさノ桂(小3) 友達がたくさんいて楽しい。環(6歳) おはなしをしている。

★入会申込みは切手四百円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛名は表紙上段に記載。  
★参加費は一ヶ月四百円。なるべく六ヶ月以上まとめて郵便局で。振替口座は表紙上段に。特に未納の方は至急払い込みを。休会、退会も必ず連絡を。  
★事務局の電話受付は原則として月々金曜の二、四時です。御協力を。